

# 森づくりの最前線

中越森林管理署 湯沢森林事務所 森林官 渡邊 慶太



苗場山を背に地元ツアースキーガイドと記念撮影

私が勤務している湯沢森林事務所は、新潟県南部の湯沢町に位置し、群馬県や長野県との県境付近の約13,800㏍の国有林を管轄しています。

湯沢町は川端康成の小説「雪国」の舞台となった温泉観光地（越後湯沢温泉）であり、四季を通じて豊かな自然に恵まれた町です。国内有数のスキーリゾート地でもあり、国有林内がコースとなっているスキー場は8箇所もあります。湯沢町内の国有林は隣接している三国森林事務所と合わせると町面積の約7割を占めています。

また、管内には、百名山の一つである苗場山（標高2145㏍）や魚野川の源流域である仙ノ倉山（標高2026㏍）など2000㏍前後の谷川連峰の山々があります。その山々を背に国有林は広がり、大部分が上信越高原国立公園となっており、登山やスキー、森林浴等の保健休養に利用されるレクリエーションの森に指定されている区域も少なくありません。

管内の人工林の割合は少しですが、スギ等の造林地があります。国内有数の豪雪地帯であることから、雪の重みやなだれ等の被害を受けている場合もありますが、たくましく育っている林もあります。越後のスギは厳しい環境のもとで育つので、成長のスピードは他の地域より遅いものの、年輪が詰まるため、丈夫な材になります。また、大部分のスギは斜面に植えられ、重たい雪に引っ張られて根元が曲がっている林が多いです。この部分は雪の重みに耐え、スギの樹幹を直立に支えているので、大変丈夫な部位となっています。しかし、曲がりの性質上、加工等が大変なため、材木としてはほとんど利用されていません。この根曲がりしている部位は自然に戻されています。昔は、屋根を支える梁に使ったり、最近では、根曲がりベンチやポイラー等の燃料材料（ペレット）として林地から搬出している場合もありますが、コスト的に厳しい現実もあります。



公売するために集積されたスギ丸太

私は、三国森林事務所管内の仕事も併任しており、常用作業員と臨時職員を合わせた3名で、毎日、山を駆けずり回っています。か



根曲がりしたスギ立木

なり広い範囲となるので隅々までというのは難しいのですが、情報提供という面では、地元住民、地元役場、地元業者、スキー場関係者、電力会社等の方々のご協力を得ることができ、非常に助かっています。

国有林を現場で管理していく仕事のなかで、森林の整備や保全を第一に考えながら、地元の方々から国有林に求められているニーズにできるだけ対応していくよう努めていきたいと思えます。



新緑のなか雪解け水が流れる清津川